

## 林業作業員の実態と森林・林業再生プランの 人材育成策とのギャップについて

○小菅 良豪（鳥取大院連合農学研究科）  
伊藤 勝久（島根大学生物資源科学部）

### はじめに

日本は明治期の森林の著しい劣化から回復し、現在では緑豊かな森林が国土を覆っている。当然ながら森林蓄積量は、年々増加の一途をたどっている。しかし森林の増加にもかかわらず、日本の林業は長期不振の只中に現在もある。木材価格の低下や林業労働者の減少・高齢化など様々な課題が山積し、林業は低迷を続けている。このような状況の下で、森林政策の大きな改革「森林・林業再生プラン」（以下再生プラン）が2011年より本格的に始まり、森林・林業の現場に様々な変化をもたらしている。

本報告では、この変化の最前線の現場で働く林業作業員の実態を明らかにし、再生プランの人材育成策（主として作業員を対象としているフォレストリーダー、フォレストワーカー研修）との異同を明らかにすることを目的とする。

### 調査方法

本報告は、以下の3つの調査を基に行う。①林業作業員へのアンケート調査（250配布、90回収※10月20日現在）、②中国地方の5林業事業体の労働管理部門の担当者への聞き取り調査、③林業作業員への聞き取り調査を基に行った。本報告での作業員とは、いわゆる作業班の班員に限らず現場で働く者とし、土場での造材作業や作業道を専門とする者も調査対象とした。また調査を実施した5林業事業体は、4森林組合1素材生産業者（チップ業者）であり、所在地別では島根県3、鳥取県1、広島県1である。

### 調査結果・考察

林業作業員へのアンケート調査の結果より、林業作業員は林業の将来性に関して「とても不安」「少し不安」を合わせると8割以上が、将来性に不安を抱いている。フォレストワーカー、フォレストリーダー研修の認知度は38%で、研修への参加希望者はFワーカー31%、Fリーダー40%となった。主な不参加理由は「研修を知らない」「仕事を休みたくない」等であった。希望する研修期間は年間10日以内が6割に達した。また林業技術の習得方法は「作業班の班長や先輩から学ぶ」が圧倒的な支持を得た。

以上の調査結果より、林業作業員は現場での仕事の中で技術習得すべきと考えているため、長期間の研修への参加意欲は低い。しかし研修で取得できる資格は林業作業員に必要である。この異同を埋めるに林業技術習得は現場、資格取得は研修と明確にし、研修期間を圧縮することで研修に参加しやすい環境をつくる必要がある。

**キーワード：** 林業作業員 森林・林業再生プラン 人材育成

（連絡先：小菅良豪 genfukei@gmail.com）